





4 友禅薔薇に孔雀図掛幅

十二代西村總左衛門

一幅

明治十五年（一八八二）

友禅・刺繍

二七六・〇×二三・五

薔薇と桃花の下で大きく羽を広げた孔雀を中央に、ハクトウオウ（白頭翁）やスズメ、セキレイ、カワセミが飛び交う様を友禅染と刺繍で表した掛幅である。伝統的な色挿し技法のほか、色糊を用いた写し友禅（鴨川染、加茂川染とも）などの技法を駆使して、絵画と比べても遜色のない奥行きのある表現となっている。また、孔雀の尾羽部分の細やかな刺繍も注目される。表装部分の更紗風の蜀江文は、画面とひと続きの織り地に友禅染で表した描表装で、金糸や色糸を刺繍して華やかな仕上がりとなっている。明治十五年（一八八二）三月の買い上げ当時の記録には「御掛物」として「御地壁羽二重、鴨川染刺繍交り、白桃春蘭孔雀雌雄小禽之図」「御縁古代織物写し」と記される（「御用度録」購入五、明治十五年、識別番号六九一〇六、宮内公文書館所蔵）。納入者は西村組の当主である西村惣右衛門、後の千總、十二代西村總左衛門（一八五五～一九三五）である。千總が明治十二年の京都博覧会で発表した鴨川染は、輸入された化学染料を糊に混ぜて用いる新しい技法である。これは、明治初頭には衰退していた友禅染が復興する要因の一つとなり、絵画的な意匠に工夫を凝らした壁掛や屏風、額などの美術染織は明治十年代以降、華やかな装飾品として世界に羽ばたくことになる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治美術の一断面——研ぎ澄まされた技と美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 82

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成三十年十一月三日発行

© 2018, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan